



ありがとう、ロータリアン！ ⑱

タイから花束のおかえしを



Panasonic Siew Sales (Thailand) Co., Ltd.
代表取締役社長秘書 部長
ブサコン・ホンヨック さん

出身：タイ
奨学期間：1997 - 98
学校名：島根大学
世話クラブ：出雲中央RC

初めて来日したのは1991年。高校の交換留学生として過ごした1年間は何かも新鮮で、体育の授業や部活動では辛抱強くがんばることを、茶道や書道の体験では礼儀作法や心にゆとりを持つ大切さを学びました。ホストファミリーの父は「一日も早く友達と話せるように」と、厳しく日本語を指導してくれました。

帰国して半年後、ホストファミリー夫妻がタイまで来て「高校を卒業したら日本の大学に進学する気はないか」と勧めたことで再び日本に戻り、大学入試に向けた猛勉強を始めました。無事に島根大学に入学しましたが授業はさらに難しく、教授から「あなたの文章は小学生並みです」と指摘されたこともありました。そんな文章力もあってか、3年生の時に米山記念奨学金に応募しましたが選ばれず、4年生で再挑戦し合格しました。

ロータリーの世界は、私にとって社会人への入門訓練ともいえるものでした。規則や時間を守ること、責任を自覚すること、あいさつの仕方などを自然と身につけることができました。でも、本当の意味で身についた大切なことを、その時の私は自覚していませんでした。

「四つのテスト」に照らす職業奉仕

当時、全国有数のそろばん産地、島根県横田町（現在の奥出雲町）では、タイと“そろばん交流”を進めていました。大学卒業後にご縁をいただき、3年間、町役場の国際交流員として勤務しました。そろばんを母国へ伝えることでタイの子どもの計算力が向上し、さらに両国の橋渡しができたことは、うれしい経験となりました。

2001年に帰国し、タイ松下電器（当時）に社長秘書として入社しました。スケジュール管理やお客さまの対応、通訳・翻訳が主な仕事ですが、経営者の視点や高い見識を学ぶことが多くなりました。同時に、米山奨学生時代、ロータリアンの皆さんと交流したことで学んだことを、たびたび思い返すようになりました。

私は、長く勤めているせいか、多くの社員から相談を受けます。共に考え、解決の糸口を見つけた時の喜びは格別です。問題の芽が小さいうちに社長へ報告し、また、社長の思いを正しく社員に伝えること、これは私にとっての小さな職業奉仕だと思っています。私の理解では、職業奉仕とは、自分の職業に誇りと自信を持たなければ続けることができないものです。

今は、自分の中でロータリーの奉仕の心を生かし、どのように成長していくかチャレンジする日々を送っています。例会で会員の皆さんが唱和していた「四つのテスト」も、当時は深い意味がわからなかったのですが、実際に仕事をするようになって、その大切さを実感しています。社長に報告する時など、その報告が「真実かどうか」「みんなに公平か」「みんなのためになるかどうか」を考えるようにしています。

良い人材を世界に送り出すこと

また、会社の創業者・松下幸之助氏の素晴らしい教訓や語録を、一人でも多くの社員に知ってもらいたいと思い、少しずつタイ語に翻訳しています。私は、せっかく育てた社員が退職するたびに残念に思っていました。その作業の中で「すべての人が一段階ずつ進歩したとすれば、社会全体もそれによって一段階向上することになります」という松下氏の言葉を知って、考え方が変わりました。優秀な人材を送り出すことで、社会全体がレベルアップすると思えばうれしいことです。これはロータリーの考え方によく似ているなど思っていたところ、松下氏もロータリアンだったと知りました。肖像写真を見ると、社章の横にロータリーバッジが輝いていました。

タイのブサコーン・ホンヨックさんは、高校時代のホストファミリーの勧めで再度来日。大学卒業後は島根県と母国とを結ぶ“そろばん大使”として活躍しました。帰国後は日本の現地企業の社長秘書として会社を支えながら、米山奨学生時代に学んだ職業奉仕、「四つのテスト」を実践しています。また、タイ米山学友会での奉仕活動などを通じ、周囲にまで善意の輪を広げている彼女の活躍をご紹介します。

日本のロータリアンの皆さんは、1万7,000人以上の米山奨学生を世に送り出しています。1+1が3になる人もいれば、中には0になる人もいるでしょう。でも、皆さんの目に留まらない場所に、日本の良さを学んで社会貢献している学友がたくさんいるということをお伝えしたいです。皆さんの人づくりは間違いなく、いろいろな形で善意の行動につながっています。

タイの米山学友会は創立してまだ2年足らずですが、児童養護施設におむつなどの物品を寄贈したり、学友の家族や友人と一緒に海岸の清掃をするなど、善意の輪を広げています。昨年9月の役員会では、タイの大学生に奨学金を支給することを決めました。奨学金をいただいた私たちらしい形だと思います。こうした地道な活動を長く続けていきたいと思っています。

人生の花束をいただいて

厳しかったホストファミリーの父は2年前に他界しました。その父に、一度だけ褒めてもらいました。大学の卒業式で総代に選ばれた時、「お父さんは鼻が高いよ」と言って見せたうれしそうな笑顔を、忘れることができません。また、日本の母は「あんたが初めて島根に来た日、他のホストファミリーは花束を持って留学生を迎えただけ、うちはなんも持って行かずにかわいそうなこと



仲間と海岸清掃。右から四人目がブサコーンさん

をした。それが今でも心残りだよ」とよく言います。

日本の母、タイの母、ロータリアン、今までお世話になったすべての人にお伝えしたいです。「もう十分に、私の人生を彩る花をいただきました。花束なんか必要ありません。皆さんが与えてくださった生涯の財産、温かみに対し、できる形で恩返ししていくつもりです。これからも見守ってくださいね」と。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

韓国米山学友会の第5代会長が決定



固い握手を交わす、全代会長(右)と柳さん

今年度の韓国米山学友会総会が11月16日、ソウル市内のホテルで開かれ、学友21人と日本からの4人が参加しました。総会では3年ぶりに次期学友会会長の選任が行われ、建国大学教授でセソウルロータリークラブ(RC)会員の全炳台さん(1980-83/仙台北RC)を第5代会長に選出。定期総会を復活させるなど、2010年から学友会の再生に努めた現会長の柳京子さん(1981-83/北茨城RC/現・ニューソウルRC会員)は「基礎づくりという役割は果たせたので、次期会長には一層の活性化をお願いしたい」とエールを送り、全さんも「ボランティア活動などにも力を入れていきたい」と意欲を見せました。